

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、高邁な理想をもって社会に貢献する生徒を育成する。来るべきSociety5.0において、国際社会の真のリーダーたるにふさわしい人材の育成をめざし、次の能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・高度なコミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』が輝く学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～

ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識やICT活用法を研鑽する機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が令和5年度実績で90%以上（R1 91.1%, R2 87.5%, R3 89.6%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が令和5年度実績で90%以上を維持（R1 92.2%, R2 93.3%, R3 95.0%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が令和5年度実績で95%以上を維持（R1 96.1%, R2 96.1%, R3 95.9%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が令和5年度実績で90%以上（R1 90.3%, R2 93.0%, R3 96.6%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を令和5年度実績で50%以上（R1 51.8%, R2 48.7%, R3 51%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（R1 36.2%, R2 30.5%, R3 37%）
- ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を令和5年度実績で各々95%以上を維持する。（①R1 95.5%, R2 100%、②R1 99.0%, R2 100%、③R1 97.0%, R2 99.0%, R3 99%、97.5%, 99.9%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を令和5年度で90%以上を維持（R1 92.8%, R2 93.6%, R3 93.6%）
- ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が令和5年度実績で45%以上（R1 41.2%, R2 45.5%, R3 56.5%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校の生徒は、将来、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとなり、社会に貢献する使命を持つ。本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

- ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が令和5年度実績で90%以上（R1 90.8%, R2 90.1%, R3 90.9%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が令和5年度実績で92%以上を維持（R1 89.7%, R2 92.4%, R3 89.4%）
 - ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、令和5年度に前年実績を維持（R1 37人 3団体, R2 18人, R3 61人）

(2) 人権教育・教育相談の充実

- ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切に、他者を大切に、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が令和5年度実績で80%以上を維持（R1 89.8%, R2 89.6%, R3 90.8%）
 - ※ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が令和5年度実績で60%以上（R1 65.7%, R2 71.6%, R3 62%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が令和5年度実績で75%以上（R1 74.4%, R2 90.8%, R3 91.1%）。
 - ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「日常の教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が令和5年度実績で80%以上（R1 78.6%, R2 73.2%, R3 81.2%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、またWWL（World Wide Learning）の取組の完成をめざす。英語の4技能を一層バランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

- ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が令和5年度実績で90%以上を維持（R1 92.1%, R2 96.0%, R3 95.5%）。

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

- ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が令和5年度実績で80%以上を維持（R1 81.9%, R2 86.1%, R3 86.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の令和5年度実績が65%以上（R1 66.3%, R2 56.7%, R3 62.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が令和5年度実績で80%以上（R1 76.3%, R2 77.5%, R3 77.2%）

4 校内課題解決に向けて

(1) 「知」の継承・発展

ア 現在の教職員がいつまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた教科指導や課題研究指導等の「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。

(2) 学習環境のさらなる充実

- ア 生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
- 生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立し、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組めるよう、機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でいじめやトラブル未然防止のため、情報リテラシーの育成にも取り組む。また、生徒自治会・生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、新型コロナウイルス感染防止対策など、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高める。さらに、防災教育の取組を引き続き進める。
- イ 北野生の「凄さ」が「輝く」授業・事業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新の計画的な実施を検討する。

5 働き方改革

教員が専門的知識及び教育スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、時間外労働の縮減に取り組む。教員が自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じる職場の雰囲気づくりを心がける。

以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が令和5年度実績で90%以上（R1 90.2%, R2 91.9%, R3 94.5%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>1. 高い学力の育成 授業に関わる研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教員が授業力向上に努めるとともに、専門知識やICT活用法を研鑽し、アカデミックな授業づくりを進めた。 ＜学校教育自己診断参考データ＞対前年度比 以下同じ *「授業は興味深く満足できるものである」(生徒 93→96.6%) *「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」(生徒 93.3→95%)</p> <p>2. 豊かな人間性と心身のたくましさの育成 生徒たちは、将来、知・徳・体のバランスのとれたリーダーとなり、社会に貢献する使命がある。学内外の各種コンクール・コンテスト、発表会、英語を使う諸活動、地域貢献活動等により取り組み、将来の進路や生き方、命の大切さや人権、社会のルールやモラルについて考える機会を充実させた。 *「命の大切さや社会のルールやモラルについて学ぶ機会がよくある」(生徒 86.7→88.2%)</p> <p>3. 次代のグローバル・リーダーの育成 コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成に向け、生徒が自ら考え発表する機会を授業の中でいかに充実させていくか、今後も引き続き、各教科・科目で考えていく。 *「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」(生徒 96→94.3%)</p> <p>4. 保護者、府民への学校情報の提供、公開 コロナ禍で、保護者や府民の方々に来校できる機会がほとんどなかった。このような状況だからこそ、配付プリントや保護者メール、WEBページ、ブログ等を充実させ、保護者の皆様に一層丁寧にお伝えする必要があると考えている。 *「学校の教育方針がよくわかる」(保護者 79.8→83.7%) *「学校は、配付物やメールマガジン、WEBページ等により、教育に関する情報を積極的に伝えている」(保護者 69.9→70.6%)</p> <p>5. 学校生活への満足度 学校生活全般を通じて満足度を高められるよう教育活動の充実を図った。学校生活に違和感を抱いている生徒に対してスクールカウンセラーによる「心のケア」も行った。 *「北野高校に来てよかったと思う」(生徒 91.9→94.9%) *「子どもを北野高校に通わせてよかったと思う」(保護者 91.3→93.2%)</p> <p>【記述回答についての学校の考え方と検討状況】</p> <p>1. 学習活動、学校生活に関することについて</p> <p>(1) オンライン対応の充実について 1人1台タブレットの貸与が実現し、全普通教室にWi-Fiのアクセスポイントが整備されてICT活用が容易になった。</p> <p>(2) 授業の理解度に対する不安について 学習に関しての質問や悩みがある場合は、授業担当あるいは教科の教員が丁寧に質問に対応するとともに質問は随時受け付けている。 *「次のことについて、教職員で日常的によく話し合っている」 ①本校の教育課題 (教職員 83.6→89.6%) ②教科指導 (教職員 87.5→89.6%) ③評価とその方法 (教職員 73.2→79.2%) *「各教科において、授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている」(教職員 91→87.5%)</p> <p>(3) 体育の授業について 高い学力と同様、運動技能の他、体力や根気よく努力を継続する力も育てている。個々の生徒の事情を配慮しつつ、1時間の授業に相当する内容を合理的に補っている。 *「体育的行事に楽しく参加している」(生徒 86.7→87.3%) *「体育行事(球技大会・水泳大会・体育大会・断郊競走)に積極的に参加している」(保護者 85.1→89.7%)</p> <p>(4) 進路指導について 今年度は感染拡大防止の観点から、やむなく対面での懇談をできる限り削減し、従来の進路関係行事の中止や仕様変更となった。情報提供の方法にも改善を図っていきたい。 *「学校は子どもの進路に関する情報を保護者に十分提供している」(保護者 58.2→62.2%)</p> <p>(5) 制服について 現在、本校は標準服ではなく制服を着用することになっており、学校で定めた制服以外での登校は認めないということを学校の方針としている。ただし「生活の手引き」にも記載の通り、防寒具の着用は、制服を正しく着用することが条件の上で認められている。また、クラブジャージは私服であり、学校の方針にそぐわないと判断し、認めていない。</p> <p>(6) 保護者への学校情報提供・メールについて 今年度、緊急事態に備えて、生徒全員と、ほとんど全てのご家庭にライデンメールの登録をしていただいた。学校からの緊急連絡を主目的としている。また、ホームページについても、今年度、仕様の更新を実施し、来年度以降ブログの掲載など改良に努める。</p> <p>2. 施設・設備の改善について</p> <p>・トイレ 教室棟の1系統の男女トイレの改修工事を行い、洋式化した。生徒による清掃の他、業者による校舎内トイレ清掃を年間20回ほど実施している。</p> <p>・部室 同窓会の創立150周年記念事業の一環として、新部室棟(六稜クラブハウス)建設に向けての準備が進んでいる。</p> <p>・黒板 「廊下側(北側)上部の窓から光が入り、黒板が光って見えづらい」という指摘に対し、廊下側上部の窓に遮光シート・遮光シェードを取り付ける対策をとった。</p> <p>・空調関係 コロナ禍の影響で常時、換気が必要となっているため、本校では、かなり高い温度の設定に変更した。</p> <p>・Wi-Fi環境の整備 一人に1台タブレットを貸与する大阪府の事業の進展に伴い、Wi-Fiのアクセスポイントは各教室に設置された。現在、通信容量の問題を含む運用方法、セキュリティポリシーについて検討を進めている。</p> <p>・プール 昨年度末より全面的に改修が行われ、25m用の飛び込み台を撤去するとともに、プールサイド、プール内の塗装を新しくした。</p> | <p>●第1回学校運営協議会 令和3年7月14日(水)</p> <p>1 授業見学の感想 ・タブレットを利用したユニークな授業に感銘を受けた。自分たちの頃にはないテクニックだと思う。 ・ペアワークを取り入れても、先生が話しているときには生徒がざわつかず、切り替えが上手くできており、この手法は良いと感じた。</p> <p>2 今年度学校経営計画について ➤ 北野は高い学力の育成、及び豊かな人間性と心身のたくましさの育成、これらを二本の柱としている。高い学力を担保していくのが授業である。授業における集中力は他校の追随を許さない。教員はそれに応える授業を展開しなければならない。そのためには時間が必要だし、管理職としてそれができるような環境を作る。北野に赴任して感心したのは学校行事が全て授業に紐づいており、授業の成果発表という位置づけになっていることだ。 ➤ 生徒指導部 昨年中止だった六稜祭は、今年は再三の延期の末に実施できた。終わったときの彼らの顔を見て、行って良かった、楽しみにしていたのだと感じた。 ➤ 進路部 今年の三年は例年通りの学力である。近年特に京大だけでなく東大希望も多くなった。やや関東志向かと感じる。</p> <p>3 協議・意見交流 ・北野に入ってより上がっていることに気づき落ち込む生徒がいる。高校の成績の良し悪しではなく、北野高校で過ごしたということがその後の活動の力となる事を生徒に伝えてあげればよい。 ・職業ガイダンスを充実してほしい。同窓会内に、色々な世界で色々な分野で活躍している人が沢山いる。幅広くガイダンスしてほしい。</p> <p>●第2回学校運営協議会 令和3年12月17日(金)</p> <p>1 授業アンケート 今年の3年生はどの項目も上がっており、上げ幅も大きい。評価において表現力が重視されるようになっている影響で、授業中に表現の機会を設定している。</p> <p>2 校内での感染症対策 各教室に手指消毒のためのアルコールを設置し、昼食時には日直の教員が黙食指導を実施している。体調不良の生徒に対しては、保健室ではシーツの交換を徹底し、休養室を保健室と分けるなどの感染対策をおこなっている。</p> <p>3 令和3年度WWLにおける取り組みと次年度以降について 本年度は海外研修が全てキャンセルとなり、代替として淡路島での宿泊研修や、Critical Thinkingの校内研修をおこなった。次年度に向けて台湾・オーストラリアでの研修や、学内留学などを残す予定であるが人員と予算の問題が課題。</p> <p>4 生徒の様子について 今年度の学校の出席状況については、遅刻数が非常に多くなりそう。昨年の休校や今年度のコロナによる不安要素から、生活リズムを崩しているのではないかと感じる。</p> <p>5 協議・意見交流 ・昔は塾に行かなくても入れる生徒が入ってきたが、今は塾に押し上げられた生徒もいる。いろいろな授業の中で、学問のロマンや楽しさを教え、自分が興味を持てることを発見できるといい。 ・教員はいつも忙しい印象がある。事務仕事の処理能力も求められるようになっている。あそびの余地を残してほしい。それをどのようにデザインするかが大事。仕事をプラスするのは簡単だが、シンプルにするのは難しい。 ・同窓会からはクラブの優秀者に激励金を出しているが、近年その支出が激増している。クイズ番組や国連への出場などバラエティに富み、感心している。勉強だけではなくがんばっている雰囲気を感じている。 ・今の3年は高校生活の一番楽しい時にコロナで楽しめなかったので他にすることがなく、勉強にエネルギーが向いた。</p> <p>●第3回学校運営協議会 令和4年2月28日(月)</p> <p>協議・意見交流</p> <p>1 高い学力の育成 共通テストの得点が今年は全国的に下がったが、北野で影響を受けなかったのはなぜなのか。 →問題傾向が大きく変わったが本校の授業は知識技能のみを問う授業が少ない。思考力を問う授業の成果が出ている。</p> <p>2 主体的に学ぶ意欲・態度の育成 ・平均学習時間が2時間以上の生徒が30%、3時間以上の生徒も目標値の30%を上回っていた。図書館の貸出数についても昨年度と比べ倍増しているため、自分で学ぶ意欲態度が育ったと見てとれる。 ・息子が明日卒業する。心身だけでなく意識も大きく成長した。手を抜かず頑張り抜く力や、授業を少しも無駄にしない意識が育った。受験で頑張る様子を通して3年間の成長を実感している。</p> <p>3 課題 (1) 学習環境については、保護者や府民への情報提供が課題。他の項目に比べ、肯定的解答が7割程度とやや低く、改善の余地がある。広報の在り方を検討している。 (2) 95%の成果がある中、残りの5%へのアプローチにも注目したい。最も立場が弱い人がそこに表れている。 (3) 時間が限られる仕事でないので、仕事内容はきりが無い。時間を有効に使うことも大切である。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 [R 2年度値] | 自己評価 |
|-------------------------|--|---|--|--|
| 1 高い学力の育成 | <p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p> | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を例年通り2回実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を継続。 ICT・オンライン学習等に係る教員研修の開催 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じ教科・科目の学習への興味・関心を一層高める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(主体的な学習習慣の定着、学習の質量両面での充実) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 | <p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合 98%以上 [98.3%]。 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が90%以上 [87.5%]。 教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が78%以上 [73.2%]。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が92%以上を維持 [93.3%]。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価95%以上を維持 [96.1%]。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が90%以上 [93.0%]。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を50%以上 [48.7%]、「3時間以上」を30%以上 [30.5%]。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数(R2 3128冊)や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持 [100%、100%、99.0%]。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が90%以上を維持 [92.7%]。 進路希望現役実現率を42%以上(R2 45.5%)とする。 | <p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合 98% ○ 「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」 89.6% ○ 「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」 79.2% ○ 「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」 94.3% ○ 「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」 94.9% ○ 「授業は興味深く満足できるものである。」 97% ◎ <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平日の一日平均自主学習時間」「2時間以上」を51% ○ 「3時間以上」を37% ◎ 貸出冊数(R3 6735冊)◎ コロナ禍で館内において対面になり、授業を行う形式を避ける傾向があり、使用数は増加していない。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」 99%, 97.5%, 99.9% ○ 「学校は進路についての情報を知らせてくれる」 94.3% ◎ 進路希望現役実現率 56.5% ◎ |
| 2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成 | <p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p> | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 | <p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が90%以上を維持 [93.6(86.7)%]。 生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」92%以上を維持 [92.4%]。 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数がR2実績を維持[18人]。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が85%以上を維持 [89.6%]、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が65%以上 [71.6%]。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が75%以上 [90.8%]。 教職員自己診断「日常の教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が80%以上 [73.2%]。 | <p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」 94.1%(86.3%) ○ 部・同好会加入率 89.4% △ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数 61名 ◎ <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 89.1% ◎ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」 62% △ 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」 91.1% ◎ 「日常の教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」 81.2% ○ |
| 3 次代のグローバル・リ | <p>(1) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p> | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、地域の資源やWWL事業も活用するとともに高大連携をさらに進め、課題研究における生徒支援をさらに進める。 | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が90%以上を維持 [96.0%]。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員自己診断「本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力的に取り組んでいる。」の肯定的評価が80%以上 [77.6%]。 | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」 95.5% ○ <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力的に取り組んでいる。」 81.3% ○ 「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」 |

府立北野高等学校

| | | | | |
|--|---|---|--|--|
| ダ ー の 育 成 | | イ ・海外の大学や高校との連携をオンラインを活用するなどしてさらに進め、また長期留学生を受け入れることで、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。 | ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が80%以上を維持[86.1%]。 ・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が65%以上[56.7%]。 | 86.3% ○ ・「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」62.3% ○（コロナ禍で実施できないプログラムが数多くあった。） |
| 4 校 内 課 題 の 解 決 に 向 け て | (1)「知」の継承・発展 (2)学習環境のさらなる充実 ア 指導部、保健体育部、道徳教育推進教師、部活動総顧問の働きかけ イ 予算の効果的執行等 | (1) ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、昨年度に引き続き各分掌、学年、教科、委員会業務の円滑な継承を推進していく。 (2) ア ・平成30年度に策定した「北野高等学校部活動に係る活動方針」の運用について検証を続ける。 ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通してみな清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 ・道徳教育推進教師の位置づけを、これまで本校で大切にしてきた自主自律の精神の涵養に資するよう取り組む。 イ ・「授業第一主義」を支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、プール、部室棟、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 | (1) ・分掌・教科において引継ぎの方法を明確にする。特に、「特定の教員しかできない」業務を最小にする。 ・教職員自己診断「各分掌・学年・教科・委員会等において、業務分担や役割分担が明確で適切である」の肯定的評価60%[62.1%]。 (2) ア ・年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめ、確認する。 ・生活アンケートの「部活のない休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を50%以上[50.0%]、「5時間以上」を同40%以上[39.6%]。 ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主体的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じる。学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 ・生徒自己診断「学校の清掃美化にしっかり取り組んでいる」90%目標。[92.2%] イ ・学校会計事務の適正な遂行のもと、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、生徒のためよりよい教育活動に向けた創造的提案を行う。 ・保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」60%以上目標。[61.0%] | (1) ・分掌を再編し、新学習指導要領に即した新しい学力に即応できる「学力向上推進室」を設置した。○ ・「各分掌・学年・教科・委員会等において、業務分担や役割分担が明確で適切である」47.9% △ (2) ア ・部活動休養日は運動部、文化部ともに確実に定着している。 ・「部活のない休日の一日平均自主学習時間」 「4時間以上」51% ○ 「5時間以上」35.5% △ イ ・よりよい教育活動に資するため教員向けPCの整備。52台、全教員の63%に相当する。○ ・「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」61% ○ |
| 5 働 き 方 改 革 | 業務の見直し 会議の精選 北野での働きがい | ・校内組織の見直し継続 ・会議の回数、時間の見直し継続 ・同僚性の高い職場の雰囲気づくり | ・「日々の教育活動における問題意識や悩みを教職員間で気軽に相談しあえる。」80%以上をめざす。[69.0%] | ・「日々の教育活動における問題意識や悩みを教職員間で気軽に相談しあえる。」79.2% ○ |